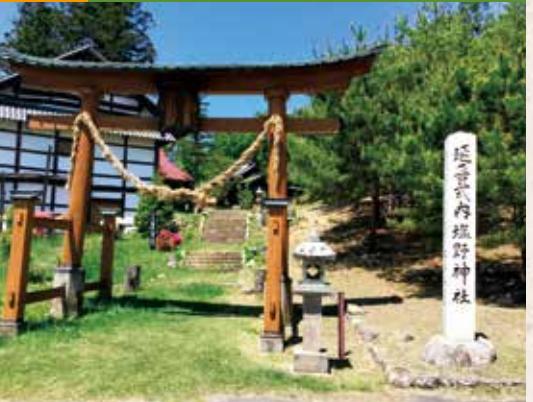


A-5 塩野神社



塩野神社は上田小県に5座ある延喜式内社（大社の生島、足島の2座と小社の山家、塩野、子檀嶺3座）であり、格式がある神社である。塩野神社の祭神は日本で唯一といわれる「塩垂津彦命」を主祭神として「素戔鳴尊」「建御名方命」の3柱の神様が祭られている。

【神紋】

- ・塩垂津彦命 八ツ藤
- ・建御名方命 梶の葉
- ・素戔鳴尊 五瓜に唐花

A-5 回り舞台



明治4年古くて、狭い舞台（現在の神楽殿）を改築しようと計画し、明治7年に新たに境内の敷地内に建築されたもの。歌舞伎舞台として人力の回り舞台も設置されている。

この新しい舞台ができることにより、明治13年に開校した「盈進学校保野支校」で学ぶ向学心に燃えた青年たちの活動は、神楽殿が教室としてその活動の場となつた。

B-4・5 塩吹池



かつては神社の手洗い池、やがて拡張され500坪ほどの池になる。江戸時代初中期の元禄15年（1702）現在の大きさに拡大する。この池の水は、現在沢山池や湯川の水を舞田地区から通水して利用しているが、かつては川西越戸地区から浦野川の水を導入し山際に用水路を作り塩吹池に導水した。池の周辺から塩が出ていたことが名前の由来。稀少植物多く保護活動をしている。

C-4 加古池（かごいけ）



何万年か前に、この池の近くを流れていた湯川が、大道刈り地籍の大規模地滑りまたは大雨による土石流の発生が原因で、流れがせき止められ加古池あたりに沼ができると考えられる。この沼が江戸期に改良され「加古池」になった。現在はこの池の白い蓮の花に魅せられ訪れる人が多く、かつて蓮根は当時の人々にとっては貴重な食材であった。

B-3 口明塚古墳



西暦600年頃（推古天皇の御代）作られたものと推定される。埋葬者は特定できないがその当時の有力者の古墳であるともいわれる。川西医院の上方にある小山が口明塚である。その後方の段丘と重なって長く引く部分は同土堤である。径15m内外で、最も高い部分で3mほどあり円墳である。

現在は塩野神社で管理されている。

A-5 竜昌院



法性山竜昌院は、真田信之公が元和元年（1615）に別所、安楽寺第三世奪斐京與和尚を招いて開いた寺と伝えられ、宗派は曹洞宗本尊「釈迦牟尼仏」寺紋は六文錢。本堂は文化11年（1814）に火災があり、ほとんど消失したが、本尊と過去帳の一部記録は残る。嘉永5年（1852）に復興し元の姿に建て直された。その後も幾度か改修され現在に至っている。

民話 鼠除韓猫明神

鎌倉時代のことです。

塩野の牧に住む一匹の大きな韓猫が毎夜毎晩現れては人々を驚かせるので、神社に祠を建てて祭ったところ、それからは現れなくなったといわれています。江戸時代の頃からは蚕を鼠から守る「鼠除韓猫明神」として祭られ、そのお札が村内各戸に配されました。



民話 保野長者 原理兵衛

江戸時代の初めの頃、原理兵衛という広い土地を持ち酒造業を営む大金持ちが保野村におりました。

信心深い理兵衛は日本中の一万寺をお参りして家に帰り「鐘のつき方がわからなかった」というとおかみさんが湯釜を火箸でついて見せました。すると、なんと大判小判がザクザクと。そのお金で理兵衛はまた沢山の良いことをしたそうです。

【原理兵衛の功績】前山寺、林法院、塩野神社、丸子岩谷堂等への多大な寄進や再建。下池の造設等

ウォーキングマップ

信州上田塩田平 保野

ほやの ほや ほや ほや
穂屋野 → 穂野 → 保屋 → 保野
古代 中世 近世 近代

歴史の散歩道



保野祇園祭（市指定無形民俗文化財）毎年7月中旬に行います

令和4年度上田市わがまち魅力アップ応援事業

保野歴史研究会

D-5 市神



旧道のほぼ中心、公民館の隣、道路の脇に設置された市神は、市が安全かつ円滑に行われ、繁栄を願う市の守護神だった。この場所では、鎌倉時代においては月三回開かれた三斎市、室町時代末期からは月六回開かれた六斎市と発展した。

現在は祇園祭の折、祭神の御座所になり、2日間ここに鎮座される。

D-5 頓海和尚揮毫の道祖神



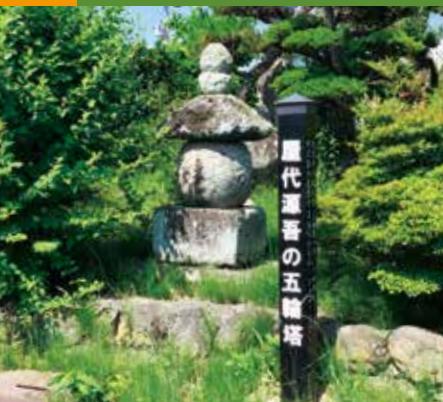
頸海和尚は文政6年（1823）高崎に生まれ、比叡山延暦寺の天台宗の名僧である。安政4年（1857）頃塩田地区では大干ばつに見舞われ、手塚村では井戸水が出なくなり困りはて、比叡山にご祈祷をお願いしたところ頸海和尚に取り次いでいただき、雨乞いのご祈祷をしたところ井戸の水が再び湧き出たといわれている。その後も手塚村とは交流があり、この「道祖神」の書もこの時にお願いして書いていただいたものと考えられる。

D-5 林法院



九品山林法院は、元亀年間（1570～1573）筑後国善導寺の僧九品が移り住む。宗派は浄土宗、本尊「阿弥陀如来」天正17年（1589）超誓寺の僧「圓蓮社通誉法山林貞」が現在地に移り林法院とした。宝永3年（1706）本堂を建設、この費用は原理兵衛が自分の所有水田535文（5升蔵）を提供し、共同耕作収入を建築費に充てた。江戸時代上田領主が北向觀音・温泉巡りの際はこの寺で休息される慣わしになっていた。

D-5 屋代源吾の五輪塔



天文17年（1548）2月14日武田軍と村上軍の「上田原の戦い」の時、五里久保でも戦いがあった。その時戦死した村上軍の臣、屋代源吾の五輪塔（供養塔）だと伝わっている。大正末期～昭和初期頃までは保野字青木にあったが、破損・盗難を恐れ現在地に移設した。高さが130cmもあり、大変立派な造りで5個の部材がすべて揃って残っている。

なお、戦いの年月が天文16年（1547）8月の説もある。

保野の四季

小さな里の自然と文化



山ツツジ (5月)



筆リンドウ (5月)



ニセアカシア (5月)



花桃 (5月)



キランソウ (4月)



山桜 (4月)



桜 (4月)



ウォーキングコース

田園コース

(距離 約1600m)



旧別所街道コース

(距離 約1000m)



保野フルコース

(距離 約4000m)



*ウォーキングコースは車も通りますので、充分注意をしてください。